

『ギャラリー萩』オーナー 下口豊子さんが選ぶ



「産地プロデューサー」として、『萩』以外での企画展も手掛ける下口さん。

繊細で優れた表現力。ニューヨークのギャラリーでも「ミラクル」と高評価を得た。



エレガントで精妙な世界に、物語を感じて

竹内瑠璃作 翠聲 カップ&ソーサー

正倉院宝物にある西アジアの工芸品の文様をアレンジした、翠の唐草模様シリーズ。往時の日本人が感じた西方への憧れと、九谷焼が持つ日本らしさを表現。[デミタスC/S:C直径6.5×高さ7cm、S直径13cm]63,000円(手前)、[コーヒーC/S:C直径8.8×高さ6.2cm、S直径15.5cm]73,500円(奥)

たけうち るり ●1968年生まれ。京都伝統工芸専門学校(現・京都伝統工芸大学校)卒業後、4年間、山本長左氏に師事。2010年、石川県立九谷焼技術者自立支援工房に入所、現在に至る。今年9月、東京の「銀座一穂堂」で初個展。

「細やかな筆致に上品な色。一目で心を奪われました」

「萩の寺」として名高い実性院の向かい。旧九谷村にあった古い蔵を移築し、開廊して15年。地元加賀にゆかりの作家たちと二人三脚で、個展を中心に企画展示する。

「直観的にこの子はすごい！持っていると感じました」。2年前の春、竹内瑠璃さんの色絵を初めて見た時の感動を思い出し、興奮気味に話す下口さん。当時、竹内さん

「萩の寺」は独立したばかりの新人だったが、一瞬で惹かれた。「今までにならぬ上品な色。組み合わせ方にも品格がある。筆も本当に良い。それに、これを描きたいという意思や、物語が伝わってくるんです」

「青々と葉が茂る森で、愉快に遊ぶ小鳥たち」。草花や小さな動物たちが紡ぎ出すおとぎ話を、語りかけてくるような一客である。